

# 千葉県の食育をめぐる現状・動向

## 1 千葉県の人口・保健医療の動向

### (1) 人口の動向

#### ① 総人口と高齢化率

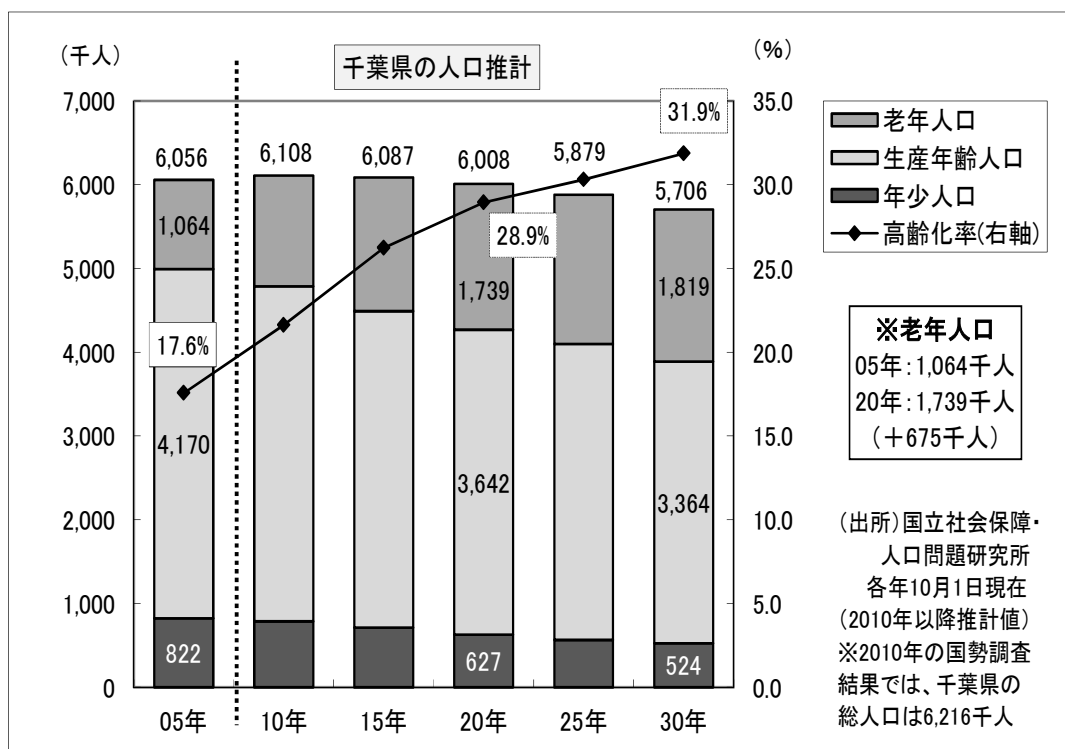
国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、

**本県の人口**は、2010年の6,108千人をピークとして減少に転じ、2020年には6,008千人、2030年には5,706千人へと減少する見込み。

**高齢化率**（65歳以上の人口比率）は、05年の17.6%から20年には28.9%、30年には31.9%に上昇する見込み。（図表1参照）

(注) 「2010年の国勢調査」結果によると、2010年10月1日時点の千葉県の総人口は、上記推計より上振れし、6,216千人となったが、「2012年の千葉県毎月常住人口調査」による2012年1月1日の総人口は6,206人となり、戦後初めて減少。

図表 1



## ② 高齢者のみの世帯

高齢化の進行に伴い、今後、高齢者のみの世帯（夫婦のみ、一人暮らし）が増加することが予想。（図表 2 参照）

図表 2

年次	65歳以上の一般世帯(単位:世帯、出所:国勢調査)			
	総数	単独	夫婦のみ	その他
1990年	204,586	42,522	65,129	96,935
1995年	290,720	62,883	98,536	129,301
2000年	412,828	97,654	146,306	168,868
2005年	558,102	136,972	201,734	219,396
2010年	875,648	191,292	357,104	327,252
90年比	428.0%	449.9%	548.3%	337.6%
00年比	212.1%	195.9%	244.1%	193.8%

(出所)総務省「国勢調査」

## (2) 保健医療の状況

平成 21 年度の国民医療費は 36 兆 67 億円で、前年度に比べ 1 兆 1,983 億円、3.4%増加。

人口一人当たりでは 28 万 2,400 円（前年度比 3.6%増）であり、いずれも過去最高。

このうち一般診療医療費（26 兆 7,425 億円）を傷病分類別にみると、高血圧や虚血性心疾患、脳梗塞等の「循環器系の疾患」が 5 兆 5,394 億円（20.7%）と最も多く、次いで「新生物」（がん）が 3 兆 3,993 億円（12.7%）となっており、両者を合わせると 3 割強を占めている。

これらは「生活習慣病」と言われている。

千葉県保健医療計画（平成 23 年 4 月改定）

総合的な健康づくりの推進に向けた課題の中で、生活習慣病予防の重要性が掲げられている。

生活習慣病は、健康長寿の最大の阻害要因。

主に不健全な生活の積み重ねで内臓脂肪型肥満となり、これが原因となって引き起こされる。これは日常生活における適度な運動やバランスの取れた食生活、禁煙を実践することで予防することができる。

## 2 県政に関する世論調査報告（食育について：抜粋）

調査時期：平成 22 年 12 月

調査対象者：県内在住の満 20 歳以上の男女 3,000 名

回答 1,571 名（回収率 52.4%）

### 【調査結果の概要】

- (1) **食育への関心度**は、「関心がある」が 7 割を超え、その理由は「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」が約 8 割。
- (2) **食育に関する活動・行動**は、「している」が約 4 割。
- (3) **国が策定した生活上の指針の活用状況**は、「参考にしている」が 3 割。
- (4) **健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識**は、「あると思う」が 5 割台半ば。
- (5) **毎日朝食を摂る規則正しい食生活に努めている県民**は、「必ずしている」が約 7 割。
- (6) **郷土料理・伝統食・行事食などの認知度**（何種類知っていますか）は、「3～4 種類」と「1～2 種類」が 2 割半ば。
- (7) **食育の推進に関わるボランティア活動への参加意向**は、「参加してみたい」が 3 割超。
- (8) **参加してみたいボランティア活動**は、「生活習慣病予防」などのための料理教室が 6 割台半ば。
- (9) **食育についての主な自由回答**（抜粋）
  - ①マスコミの情報に左右されず、正しい知識を身につけたい。
  - ②伝統食や行事食の作り方を学ぶ機会がなかった。
  - ③親たちにもっと推進・指導していきべき。
  - ④はっきりと食育の意味がわからない。もっとわかりやすく啓発すべき。
  - ⑤自分の食生活について考える機会はあまりない。
  - ⑥家族が団らんすることで得られるものは、とても大きい。食を通して、人と人のつながりが強くなっていけばいい。
  - ⑦これからは、男性も食育の推進が必要。
  - ⑧食育は家庭では限界があるので、学校教育でもっと力を入れて取り組んでほしい。